

らじみさらだボール子育て情報



「知恵と発達」
令和4年7月13日号
板橋富士見幼稚園



幼児の育ちは「はじめの一步」から

人間は、子どもが生まれるとその瞬間から親が乳を与え、母子関係が強い絆で結ばれ育児がスタートします。子どもは、親への依存から始まり、3歳までに自我が芽生え、自分のしたいことをはっきりと要求できるようになります。

8か月を過ぎたころから指差しをしはじめ、「あっち」という一語文を覚えます。言葉は、感情と一体となるものです。自分の思いを伝えることは、まさに「はじめの一步」です。このはじめの一步がうまく自己の欲求として満たされないと、負の感情となり、豊かな心情に結びついていかないとされています。



普段見ていると、同じことを繰り返しているように見えますが、以前に経験した事でも、その子にとっては、毎日の出会いや自己の欲求の全てが日々新しい感覚で認識されるはじめの一步となるのです。この毎回出てくるはじめの一步は、その子に安心感や安定感をもたらし、自己肯定感を育てます。この自己肯定感は、幼いながら人として「認められる」事の証であり、喜びが伴います。この喜びを手に入れることが、3歳までの基礎的な育ちとなります。つまり、親子間の絆がしっかりと結ばれていることが重要となります。

子どもの欲求に素早く応え、その子の思いに寄り添うことが大切であると言われています。1つ欲求が通ると、2つ目の欲求が、2つ目の欲求が通ると3つ目の欲求が出てきて、きりがなさそうに思うかもしれませんが、しかし、欲求が満たされることで自己主張ができるようになり、その後の生活に自信が培われていきます。自信を育てるためには、できる限り否定的な言動を抑え、失敗に気づかせないことも子育ての秘訣です。



【写真】七夕集会ではホールに星空が、
空の世界に思いを馳せました。